

比較家族史学会
会報 比較家族史 72

事務局 〒100 - 0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F
(株) 毎日学術フォーラム内 比較家族史学会 ☎ : 03-6267-4550 F A X : 03-6267-4555
E-mail : maf-jscfh@mynavi.jp 郵便振替 00130-4-25222 (名義 比較家族史学会)

2018年 比較家族史学会第65回 春季研究大会のご案内

【日程】 2019年6月15日(土)・16日(日)

【会場】 お茶の水女子大学(〒) 112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

共通講義棟 2号館 101室

【参加費・申込み】 2,000円、学部学生は無料(学生証提示必要)、事前申込み不要

【懇親会】 会場: La Croce (ラ・クロージェ) (丸ノ内線茗荷谷駅改札出て左へ徒歩一分、
コンビニ上2階。TEL. 03-3944-7878)

会費: 4,000円

【会場校連絡先】 小谷眞男研究室 kotani.masao@ocha.ac.jp

【プログラム】

6月15日(土)

9:20~9:30 会長挨拶 落合恵美子(京都大学)

9:30~10:50 自由報告 司会 小玉亮子(お茶の水女子大学)

9:30 田姫(お茶の水女子大学大学院)

「中国女性における仕事と家事・育児の調整プロセス—山東省の事例を通して—」

10:10 金沢佳子(千葉大学大学院)

「初生女子の「家」—「姉家督」から再考する今日の世代間関係—」

10:50~11:20 総会

11:20~11:30 休憩

11:30~17:10 シンポジウム「世代間関係」

司会 小池誠(桃山学院大学)

11:30 趣旨説明 小池誠(桃山学院大学)

11:40 根本みなみ(筑波大学)

「近世大名家における『家』構成員をめぐる世代間関係」

12:20～13:10 お昼休

司会 牧田勲 (摂南大学)

13:10 宇野文重 (尚綱大学)

「明治民法下の世代間関係の理念と実相——扶養法と『家』制度を中心に——」

13:50 冷水登紀代 (甲南大学)

「世代間関係—民法学の観点から—」

14:30～14:40 休憩

司会 施利平 (明治大学)

14:40 村上あかね (桃山学院大学)

「家計からみる現代日本の世代間関係」

15:20 中西泰子 (相模女子大学)

「高齢者介護意識にみる若年・壮年の世代間関係と性別役割—希望と実現可能性のギャップ—」

16:00 水嶋陽子 (常磐大学)

「日本農村高齢者の住まいと世代間関係」

16:40～17:10 質疑応答

17:30～20:00 懇親会「La Croce (ラ・クローチェ)」

6月16日(日)

司会 小池誠 (桃山学院大学)

9:20 鄭楊 (中国ハルビン師範大学)

「中国都市部の子育て支援と世代間関係」

10:00 施利平 (明治大学) 「中国農村部の世代間関係と都市化の影響」

10:40 金香男 (フェリス学院大学)

「韓国の高齢者と世代間関係—少子高齢化のなかの家族と福祉—」

11:20 中村沙絵 (京都大学)

「少子高齢化を迎えたスリランカの世代間関係と社会福祉」

12:00～13:00 お昼休み

司会 小池誠 (桃山学院大学)

13:00 増田研 (長崎大学)

「アフリカの高齢者ケアをめぐる『3つの神話』を問い直す—社会福祉と親族研究の接続領域から—」

13:40 高橋絵里香 (千葉大学)

「個人的な住宅—ハウジングにみるフィンランドの世代間関係—」

14:20～14:30 休憩

14:30～16:30 シンポジウム「世代間関係」 質疑応答・全体討論

司会 小池 誠・施 利平

【シンポジウムの趣旨】

今回のシンポジウムは「世代間関係」というテーマに取り組む。「世代間関係」は日本の学会ではあまり聞きなれないテーマであるが、欧米ではシンポジウムの成果が論集として出版され、また「世代間の連帯 (intergenerational solidarity)」という言葉で社会的な提言もなされている。このような問題設定の意義は、3つあると考える。第一に、従来、別々のテーマとして議論されてきた、親世代の子世代に対する養育／教育という問題と、子世代の親世代に対する扶養・介護という問題を一つのパースペクティブで捉えることが可能になる。第二に、近年、日本でも議論されるようになった若者世代と高齢者世代の対立（年金問題をめぐる論争など）という政治経済的なマクロな問題と、個々の家族をめぐるミクロな問題を架橋するパースペクティブとなる。第三に、「世代間関係」は、シリーズ「家族研究の最前線」の先行するテーマ、「家と共同性」・「出会いと結婚」・「子どもと教育」・「人口政策」のすべての問題に関わると同時に、それら4つのテーマをまったく異なる視点から分析することを可能にするものである。

シンポジウムは、以下のような4部構成をとる。最初の「世代間関係の歴史的展開」では近世から現代に至る日本の世代間関係を取り上げる。**根本報告**は江戸時代の萩毛利家における世代間関係に焦点を当て、大名家に独特な当主と子女との多様な関係性を明らかにする。**宇野報告**は明治民法下の扶養法の構造を「家」制度との関係に注目しながら検討する。**冷水報告**は現代民法における世代間関係を取り上げ、とくに老親に対する扶養義務と、民法改正に伴う特別寄与分の問題を論じる。第二の「現代日本における世代間関係の諸相」は家族社会学の分野から現代日本の世代間関係に迫る。**村上報告**は出生コーホートによる雇用機会と世帯構造、結婚・出産、資産形成、親からの援助の違いを明らかにする。**中西報告**はネットモニター調査の結果から、「希望」と「実現可能性」の区別に留意して若年・壮年世代の高齢者介護意識の把握に努める。**水嶋報告**は茨城県北部の農村部の調査から高齢者のもつ「跡継ぎ」像を把握したうえで、親世代と子世代との関わりに迫る。第三の「東アジア社会における世代間関係の変容」は急激に変わりつつある中国と韓国の世代間関係にアプローチする。**鄭報告**は中国都市部の調査にもとづき、子育て期の支援における親世代の「義務」と子世代の「権利」のアンバランスについて論じる。**施報告**は急速な都市化が進展する浙江省の農村部の調査にもとづき、世代間関係に関して住民と出稼ぎ農民工との比較研究を試みる。**金報告**は、韓国における伝統的な家族規範とジェンダー規範に強くとらわれた家族による扶養と介護が、急激な高齢化と子世代の扶養意識が弱体化するなか、どのように変化しているのか明らかにする。第四の「世界の多様な世代間関係」は文化人類学の分野から東アジア以外の地域における世代間関係にアプローチする。**中村報告**はスリランカのシンハラ農村および都市部の事例を中心に、家族による老後を支える仕組みと

ともに、親族ネットワークや宗教的制度など社会に埋め込まれた実践の福祉的諸機能に注目して分析を進める。**増田報告**は近年高齢化が進みつつあるエチオピアの事例を対象に、家族によるケア関係の実態に迫る。**高橋報告**は公的ケアが整備されたフィンランドの調査地における老親と子世代の関係性をハウジングに焦点を当てて論じる。 (小池誠)

【昼食】 6月15日(土)・16日(日)両日とも弁当は用意しません。最寄りの東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅周辺には、各種飲食店のほか、Vie de France (サンドイッチなど)、スーパーSantoku (各種お弁当あり)、マクドナルドなどがあり、駅から大学までの間には、ローソンやファミリーマートなどがあります。1日目(土曜日)に関しては大学正門脇の「Seattle Espresso」(ピザなど)も営業しています。

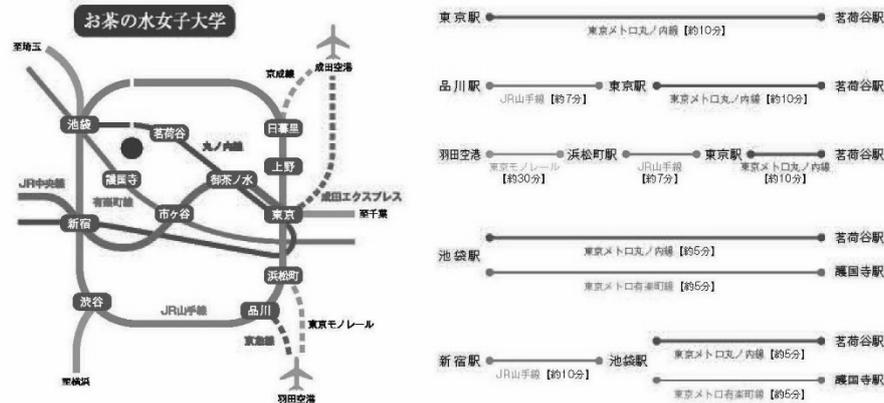
【宿泊】 宿泊は特に斡旋しませんので、各自でのご手配をお願いいたします。

【託児サービス】 特別な配慮はできませんので、ご了解ください。

【出欠はがき】 同封のはがきにて**5月31日(金)まで**にお知らせください。なお、返信はがきには62円切手を貼って投函してください。

【大会運営委員】 小谷眞男(お茶の水女子大学)・小玉亮子(お茶の水女子大学)・小口恵子(茨城女子短期大学)・小池誠(桃山学院大学)・施利平(明治大学)・牧田勲(摂南大学)

ACCESS MAP



AREA MAP

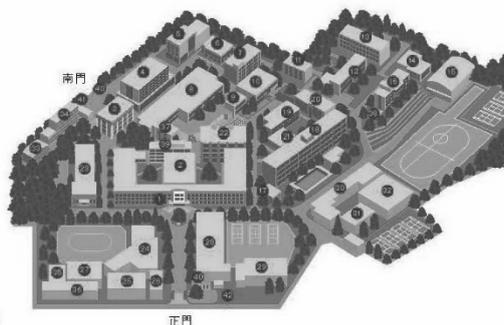


※なお週末は南門が閉鎖されているため、正門をご利用ください。

CAMPUS MAP

施設一覧

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 大学本館 | ②③ 総合研究棟 |
| ④ 大学講堂(観音堂) | ④ 附属幼稚園 |
| ⑤ 学生センター棟 | ⑤ 附属小学校第1校舎 |
| ⑥ 文教育学部1号館 | ⑥ 附属小学校第2校舎 |
| ⑦ 共通講義棟1号館 | ⑦ 附属小学校第3校舎 |
| ⑧ 共通講義棟2号館 | ⑧ 附属小学校体育館 |
| ⑨ 共通講義棟3号館 | ⑨ 附属高等学校校舎 |
| ⑩ 附属図書館 | ⑩ 附属高等学校体育館 |
| ⑪ 保健管理センター | ⑪ 附属中学校第1校舎 |
| ⑫ 大学食堂 | ⑫ 附属中学校第2校舎 |
| ⑬ 課外活動共用施設 | ⑬ 附属中学校体育館 |
| ⑭ Student Commons | ⑭ いずみナーサリー |
| ⑮ 文教育学部2号館 | ⑮ 大尊宿舎 |
| ⑯ 課外活動団体談話室 | ⑯ 作業会館 |
| ⑰ 大学体育館 | ⑰ 柳蔭会館 |
| ⑱ 人間文化創成科学研究科・ | ⑱ お茶大アカデミック・ |
| 全学共用研究棟 | プロダクション研究棟 |
| ⑲ ラジオアイソトープ実験センター | ⑲ 茶室 芳香庵 |
| ⑳ 理学部1号館 | ㉑ 生活科学部本館② |
| ㉑ 理学部2号館 | ㉒ 守衛室 |
| ㉒ 理学部3号館 | ㉓ 文京区立お茶の水女子大学こども園 |
| ㉓ 情報融融センター | ㉔ 国際交流留学生プラザ建設予定地 |



委員会報告

【庶務委員会】

(1) 会員情報の変更

会員情報の変更がありました場合には、学会事務局までご連絡ください。所属・住所などの変更のほかに、65歳以上の会員で特別会員を希望する場合、10年以上継続して会員で終身会員を希望する場合にもご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

また、学会の案内をメールにて発信していますが、不達が多くなっています。**メールアドレスを変更された場合にも、学会事務局までご連絡ください。**

(2) 会費納入

今回、**会費振込用紙を同封させていただいております。**本学会は、学会費によって維持されています。学会費が未納の会員については、学会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会員資格によって学会費が変更されますので、ご確認ください。

(3) 理事選挙

来年は理事交代になりますので、理事選挙を実施します。本年12月に投票用紙をお送りし、1月に返信いただく予定です。選挙権者・被選挙権者については、**会費納入が済んでいる**ことが条件となりますのでご注意ください。

【渉外委員会】

(1) 2018年比較家族史学会第64回秋季研究大会について

標記の秋季大会（韓国家族学会・比較家族史学会合同会議、2018 KFSA-JSCFH Joint Conference “Intimate Relationships: Korea-Japan Comparative Perspective”）が韓国家族学会（KFSA、会長：Geo-Soo HAN 江原国立大学教授）との共催で2018年10月27日（土）ソウル（国立）大学人類生態学部（222号館）で開催された。大会テーマは”Intimate relationships across the lifespan”で日本側からは4名の報告者（山田昌弘、野辺陽子、岡

田浩樹、賽漢卓娜の各会員)と4名の討論者(小島宏、田淵六郎、米村千代、小池誠の各会員)のほか、落合恵美子会長(開会挨拶)が登壇し、韓国側も同数が登壇した。日本側の参加者は総勢17名であったが、韓国側の参加者は多く、活発な議論が行われて盛会であった。前夜にはソウル大学社会開発政策研究所主催の夕食会、当日午前には同大学古文書館(Kyujanggak)見学会、当日の夕刻にはKFSA(同大学人類生態学部)主催の懇親会が開催され、日韓家族研究者の相互交流を大いに深めたという点でも非常に有意義な大会であった。なお、本大会の立ち上げについてはKyung-Sup CHANG 社会科学部教授、その後の運営についてはKFSA 事務局長のJaerim LEE 人類生態学部助教授、事務局長補佐のHyejoong KIM 氏の多大なご尽力に負うところが大きい。

【編集委員会】

(1) 投稿論文の募集

『比較家族史研究』34号の投稿論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、7月末までに下記の連絡先までe-mailもしくは葉書でご連絡ください。その際、論文名(仮題で結構です)をお知らせください。投稿論文の提出〆切は8月末です。

(2) 書評・文献紹介対象書の推薦

書評・文献紹介をご希望の方は、8月末までに、下記の連絡先まで著書をお送りください。自薦他薦を問いません。

【連絡先】

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学 堀田研究室

e-mail: y-hotta@staff.miyakyo-u.ac.jp

電話: 022-214-3396

(編集委員長 堀田幸義)

理事会議事抄録

2018年12月9日(土)に京都大学で開催された理事会の議事録抄録を掲載します。

1. 庶務委員会

① 予算執行状況・会員動向

会費の督促方法を変更したことで会費納入率が上昇した。会員数は変わらず、今後65歳以上の会員が増え、退会者の増加が予想される。

② 会費振込通知の有料化

2020年4月1日以降、会費振込通知が有料化されることが報告され、今後対応策を検討することが確認された。

③送付料の値上げ

各種送付料の値上が学会財政を圧迫する可能性が高く、今後の課題である。

2. 企画委員会

①2018年秋季研究大会（ソウル大学）

2018年10月27日に2018年秋季研究大会がソウル大学で開催された。本会員17名が参加し成功裏に終わった。

②2019年春季研究大会（お茶の水大学）

2018年12月22日（土）に明治大学にて準備会が行われることが報告された。

③2019年秋季研究大会（中国）

2019年秋季研究大会を中国社会科学院日本研究所・社会研究所と比較家族史学会との合同学術会議として開催される。会議は1日で、翌日は市内見学。会議のタイトルは「高齢化する中日社会における家族の変化と社会的支援」を予定。先方の事情で参加者の人数制限を設ける。会議開催費は先方の負担の予定、日本側参加者の旅費などは実費負担となる予定である。詳細については今後検討する。

④2020年以降の研究大会について

2020年春季研究大会を徳島大学の土屋敦先生に、2020年秋季大会は尚絅大学の宇野文重先生に打診することが確認された。

④出版計画について

小山静子・小玉亮子編『子どもと教育』の編集が順調に進んでいることが報告された。2019年春季大会「世代間関係」で当初の出版計画が終了するにあたり、今後の出版継続に向けて、2、3月頃に出版社と交渉することが確認された。テーマ（二冊分程度）について、企画委員会・理事会で検討し、出版社との交渉で提示することになった。テーマとしてLGBTや人の移動、あるいは身分登録などが提案された。

3. 編集委員会

①『比較家族史研究』第33号編集状況について

高木侃先生の追悼文を森謙二先生に依頼することが了承された。

②『比較家族史研究』第34号のソウル大会の特集について

ソウル大会の日本側の論文を中心として『比較家族史研究』第34号の特集とする。

③『比較家族史研究』のバックナンバー公開について

『比較家族史研究』のバックナンバーを学会HPにて公開する方向で検討しているが、投稿した人たちから承諾を得る方法として、会告を『比較家族史研究』33号、会報、学会HPに掲載することが決定された。また会告の内容及び申し出期間（2019年3月31日から2020年3月31日まで）についても承認された。PDF化作業についても出版社に残部があるため、裁断可能ということが報告された。

④『比較家族史研究』第35号の中国大会の特集について

2019年秋季研究大会(中国大会)の内容をどのように特集とするのか議論した。

⑤『比較家族史研究』の査読について

掲載不可など評価が分かれた場合、第3者の査読を元に、編集委員長が判断することが確認された。

4. 渉外委員会

本年7月21日に基礎法学 学会連合と学術会議との共催で基礎法学シンポジウム「<所有権>を問い直す—基礎法学の挑戦」が日本学術会議講堂で開催された。

訃報

本学会の元会長の高木侃先生が逝去されました。本学会の発展にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。なお、『比較家族史研究』33号に元会長の井ヶ田良治先生とともに追悼文が掲載されていますのでご覧ください。

会 告

既掲載論文の著作権委譲に関するお願い

比較家族史学会では、現在、本会機関誌『比較家族史研究』掲載論文について、創刊号に遡って電子化し、ホームページにて無料公開する計画を推進しております。対象は、現在、J-STAGEにて公開されていない、創刊号～第23号の掲載論文を予定しております。

この計画を推進するに当たっては、著作権(日本の著作権法第21条～第28条)について、本会が著作権者から譲渡ないし許諾を受けていることが必要となります。本会と致しましては、上記対象号における著作権者の方々に、掲載論文に関する著作権のうち、複製権および公衆送信権(以下、この二つの権利を複製権等という)を本会会長に委譲していただきたく存じます。

つきましては、上記対象号における著作権者のなかで、複製権等を本会会長に委譲することに同意されない方は、2020年3月31日までに同意しない旨を記した書面(様式自由、要自署)を本会事務局までご提出下さい。ご連絡がない場合には委譲をご了承いただいたものとして処理させていただきます。

なお、今回の複製権等の委譲は、『比較家族史研究』を電子公開することが目的であり、著者が著者自身の研究活動に使用する際には、投稿規程に従うものと致します。